

当院における維持血液透析患者の予後についての検討

第 52 回 大阪透析研究会

山田明子・栗岡康子・佐々木敏作¹ / 林 直子・丸山禎之・和田 茂² (大阪掖済会病院 内科¹ / 透析室²)

【目的】当院における維持血液透析患者の予後について検討。

【対象と方法】1974 年から 1998 年末までの 25 年間で維持血液透析を施行した予後の明らかな 99 例を対象とした。生存率を全例、性別、導入病院別、原疾患別、透析導入年度別、導入時年齢別に算出し比較し、死亡原因についても検討した。

【結果】この 25 年間で透析導入患者の高齢化と糖尿病例の増加を認めた。1、5、10 年生存率は全例で 83.8%、49.1%、36.7%であった。男性、糖尿病性腎不全群、65 歳以上導入群で生存率は低い傾向を示したが有意差は認められなかった。死因では悪性腫瘍の比率が 15.8%と高い傾向にあった。